



子育て応援事業所セミナー開催!

令和5年度 おくいずも子育て応援事業所 認定式

町では、仕事と子育ての両立を応援する事業所を「おくいずも子育て応援事業所」として認定する制度を平成27年度から実施しており、11月17日に、認定式が役場仁多庁舎で行われました。今年度は、認定後5年が経過した3事業所が認定更新を、そして、新たに3事業所が認定を受け、糸原町長から認定証とのぼりが手渡されました。各事業所では、産後パパ育休や子の看護のための休暇を時間単位で取得でき、子育て世代が安心して、仕事と子育てを両立できる環境を整えられています。

新規認定
 有限会社糸賀工務店
 JAしまね仁多支店
 奥出雲とうふ・いしだ

おくいずも子育て応援事業所の認定事業所を対象に、地域ぐるみで子どもを育てる環境づくりを促進することを目的とし、11月17日、役場仁多庁舎で「子育て世代がもっと会社と地域で活躍したくなる奥出雲に!」と題したセミナーが開催され、20名が参加されました。講師の一般社団法人おくいずもん代表理事落合孝行さんは、これまで三沢地区のまちづくりや移住者交流会を開催する等の活動に携わる中で、人と人が出会うことで新たな可能性が見いだせるという経験から、企業が地域のイベントに参加することで、人材の確保や新たなサービスの提供につながる事もあると話されました。その後、ワークショップでは参加者が自社の強みを書き出し、他社とのコラボレーションにより地域で何ができるかを話し合いました。今後、本町では、「町ごと子育て奥出雲」のキャッチフレーズのもと、事業所や地域と協力をしながら子育てが幸せにできるまちをめざします。

椎茸関連施設譲渡契約締結式

町の第三セクターである有限会社奥出雲椎茸が3月29日に破産手続きの開始決定を受けて以降、破産管財人である熱田雅夫弁護士との助言のもと、破産手続きに並行して、施設の活用等の検討がなされてきました。12月1日、インターネット事業のほか、木質バイオマス資源化事業や発電事業等を展開する株式会社工又ディエス（岡山市）が全額出資して設立した奥出雲椎茸株式会社（奥出雲町三沢）に施設を有償譲渡する契約が締結され、椎茸事業の承継がなされました。熱田弁護士から「資源循環型社会」という町の理念のもと、施設や菌床等の有形資産とこれまで従業員の方が培ってきた知識等の無形資産を無駄にしないよう手続きを進めてきましたと説明がありました。そして、佐野浩 社長は、「株式会社工又ディエスでは、広葉樹を使用した事業もあり、以前から菌床しいたけにはとても興味がありました。今後、老朽化した機械設備の更新や雇用を確保し、安定供給ができるよう体制を整えていきます」と話されました。最後に糸原町長は、「佐野社長から『奥出雲椎茸』の栽培事業を承継して地域振興に寄与したいと表明を受け、町としても感謝と期待をします」と述べました。引き続き、奥出雲産のブランド椎茸は、町内だけでなく、全国にお届けすることとなります。



(左から) 熱田雅夫弁護士、糸原町長、佐野浩一社長

奥出雲町 第三セクター等 経営検討委員会の 中間答申が町長へ 提出されました

松江市の島根県弁護士会会議室において、第4回まで行われた第三セクター等経営検討委員会の内容を踏まえた中間答申が、10月31日に中川委員長から町長へ提出されました。中間答申には有限会社奥出雲椎茸が経営破たんに至った経緯の検証結果と第三セクター等の経営体制や町が行う経営支援等の課題および検討が必要な事項がまとめられています。今後は、引き続き中間答申の内容を踏まえて他の第三セクター等の経営のあり方について検討を行い、その結果をまとめ、最終答申が行われる予定です。



中川委員長 (左)

第25回米・食味分析鑑定コンクール国際大会

第25回米・食味分析鑑定コンクール国際大会が12月1日から2日にかけて新潟県中魚沼郡津南町で開催され、全国・海外から5092点の米が出品されました。食味値・味度値による1次審査を通過した米は炊飯され、「外見・香り・粘り・堅さ・うま味」を基準とする最終審査によって賞が決定されました。



第25回米・食味分析鑑定コンクール国際大会にて賞を受賞された皆さん

第28回 中国中学生選抜剣道大会

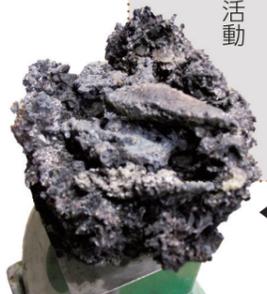
第28回中国中学生選抜剣道大会が12月3日に、奥出雲町民体育館で開催され、中国地方各県から男女計43チーム、約300名が参加しました。試合は、3校総当たりによる予選リーグの上位1位が決勝トーナメントに進出ルールで行われました。本町からは、仁多中男女と横田中男子が出場し、仁多・横田中男子は、惜しくも予選リーグで敗退しましたが、仁多中女子は決勝トーナメントに進出し、見事第3位に入賞しました。優勝は、男子が岡山県岡北中、女子が広島県八本松中でした。



高野瑞希選手(横田中2年)と足田綺来選手(仁多中2年)

令和5年 小学生たたら体験

奥出雲町内の小学6年生を中心に「たたら体験学習」が11月30日から12月1日にかけて鳥上小学校敷地内の古代たたら体験学習工房で実施されました。この学習は、本町に伝わる伝統的製鉄技術「たたら製鉄を、日刀保たたら」の皆さんの協力をいただきながら体験すること、郷土への理解を深めるとともに、体験を通じた表現活動を行う機会とすることを目的とし、町内小学生の合同学習で行う様になってから、今年度で20回目を迎えました。1日目は、炬づくりや鉄穴流し体験を、2日目は、実際に操業を行い、鉞(ケラ)を取り出しました。今回の体験では、砂鉄104kg、木炭150kgを使用し、できた鉞は25kgでした。参加した児童は、「みんなで作ってとても感動しました。世界に通用する技術なので、広めていかなければいけないと感じました」と感想を述べました。児童は今後、各校区の鉄づくりに関わる歴史や活動などを表現する事後学習に取り組みます。



出来上がった鉞(ケラ)

短編映画「たたら」が 映画賞を受賞しました

令和4年5月に鳥上地区で撮影が行われた鳥根の自然と父子愛を描いた短編映画「たたら」が3つの映画祭で賞を受賞しました。この映画は、経営コンサルティングや広告制作を行うストラテジックパートナーズ(株)が広告制作チームの社員育成のために制作しました。

米国に日本の文化や食などを紹介している同社のプロデューサーである南谷さんは、島根県出身の知人から聞いた「たたら」について興味を持ち、海外で紹介したいという思いで、今回の映画のテーマを決められました。南谷さんは「撮影のために田んぼを使用させてもらったり、地元の方におもてなしをしてもらい、心から『ありがとう』と感謝の意を述べられました」と思いです」と感謝の意を述べられました。また、同社の芦田代表取締役は、たたら文化に触れ、「自然を大切にしながら、高い品質を誇る鉄をつくる文化に感銘を受け、この映画を製作しなければならぬという使命感が次第に生まれました」と熱い思いを話されました。

この映画には、日本在住の外国人俳優も出演しており、本町の景色の良さや空気のおいしさを気に入られたようです。現在、短編映画「たたら」は、アマゾンプライムやYouTubeでの配信を準備しています。



▶南谷プロデューサー

- 受賞**
- Indie Short Fest 8月月間賞受賞
 - Japan Film Festival Los Angeles公式選出およびBEST SHORT+ Award (最優秀中編作品賞)受賞
 - パンクパーアジア映画祭選出